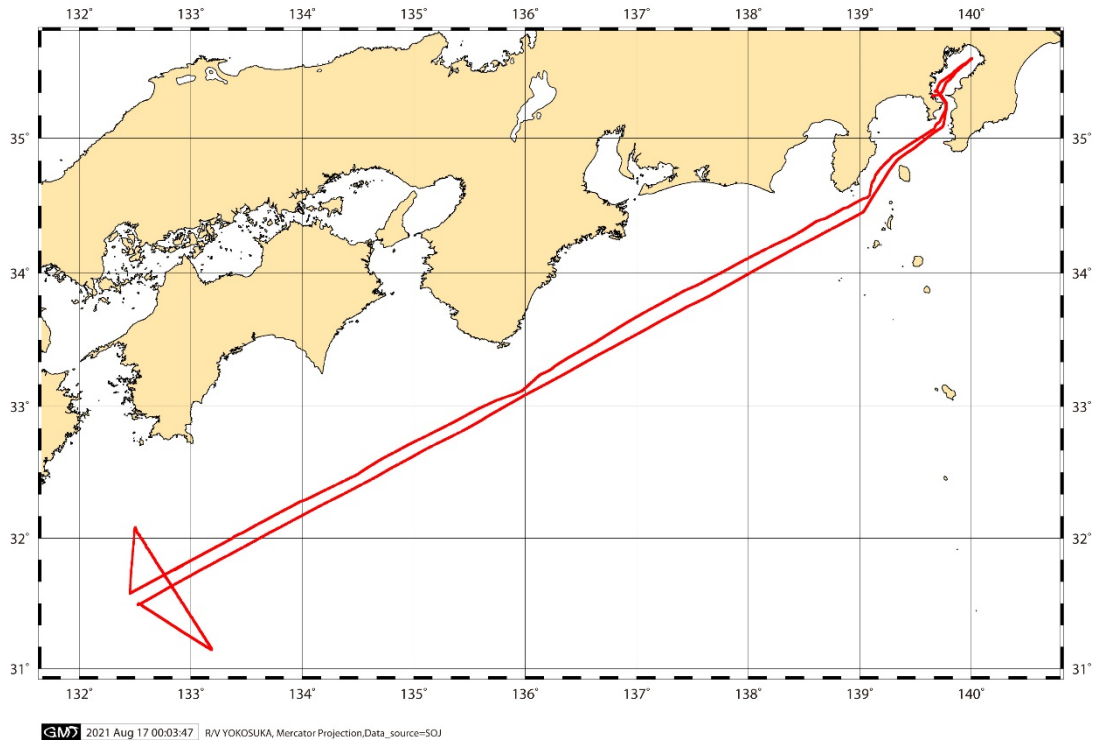


## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- (1) 航海番号： YK21-14
- (2) 使用船舶： よこすか
- (3) 航海名称  
海底震源断層の高精度広域調査：地震探査および地殻活動観測
- (4) 首席研究者  
新井 隆太 (海洋研究開発機構)
- (5) 課題代表研究者  
P21-08 三浦 誠一 (海洋研究開発機構)
- (6) 研究課題名  
P21-08 海底震源断層の高精度広域調査：地震探査および地殻活動観測
- (7) 航海期間  
2021/08/06 - 2021/08/16
- (8) 出港～帰港  
横須賀港 JAMSTEC 専用 1 号棧橋 - 横須賀港 JAMSTEC 専用 1 号棧橋
- (9) 調査海域  
南海トラフ・日向灘
- (10) 航跡図

YK21-14 Nav Track



## 2. 調査概要

本航海 YK21-14 は、海洋研究開発機構の中長期計画（3）海域で発生する地震及び火山活動に関する研究開発の（1）サブ課題「海域観測による地震発生帯の実態把握」のための部署目標（1）I.-②「巨大地震・津波の発生源として緊急性や重要性が高い海域を中心に三次元地殻構造や地殻活動、断層物性、地震活動履歴等に係る調査」の一環として、部署実施項目として定めた「南海トラフ等重要海域においては、断層の複雑な形状や断層付近の各種物性を三次元的に捉える」ことを目的とした調査である。調査海域である南海トラフ西端から日向灘にかけては、プレート境界での固着状態がトラフ平行方向に急激に変化し、また過去の巨大地震発生域の浅部および深部においてスロースリップや超低周波地震等のスロー地震が頻発している。これら多様なプレートすべり様式を規定する構造要因を明らかにするため、2次元屈折法探査を実施する。本航海 YK21-14 では、この屈折法探査のために、トラフ平行測線とトラフ直行測線の2測線に合計100台の構造探査用海底地震計を設置した。

また「第2回海域地震火山部門研究航海シンポジウム」にて提案された海底電位磁力計

（OBEM）1台の設置も行った。OBEM設置について、名古屋大学との共同研究「日向灘地震発生帯研究」の一部としても実施した。